2012年　研修会をふりかえって

講師　　望月　敏子

事務局から、今回の研修会について何か書くように依頼されましたが、その時々に「思い」や「想い」があるので、私のメモ帳から折々のそれらを掘り起こし、思うがままに書くことにしました。私の「おもい」が少しでも皆さんの心に届いたら幸いです。

〇月×日

今日、会より研修会の講師を依頼された。正直なところ、年老いた身で今更と思ったが、年を重ねてきたのだから、今までの考えや積み上げてきたものを一人でも多くの人に伝えておきたいとも考えた。それに、日頃から会員研修の必要性を痛感していたし、折角戴いた「相談役」の肩書きにも、少しはお応えできるかなと思って引き受けることにした。

〇月×日

幾つかの過程を経て、結局、全体研修会ということになり、初心者研修会も兼ねることとなった。　構想を練り始めて、一見ささやかな研修会のようだが、これは予想以上に容易なことではないと気がついた。

＊　課題

・　受講者が初心者から大学院卒の専門家まで、非常に多種多様であること。
・　会の要望がはっきりしているのは、「日本語能力試験について」と「動詞の（て形）とか（種類わけ）」等で、任された部分が殆どであること。

上記のような条件の中で、３回・９時間の研修内容をどう構築するのか。また、多種多様、不特定多数の人達を対象にどのように時間を配当すればよいのか、受講者のためにより役立つには…　など、解決すべき課題はつきない。

＊　対策

・　折角、選んで戴いたのだから、私でなければ伝えられないことを盛りこむ。すなわち、私の日本語ボランティアに関する考え方や想い、長い間の積み重ねなどを披露し参考にしてもらう。そうすれば、レベルを問わず各自の実践と重ね合わせて再認識できるだろう。そのためにも具体的な実践を中心とした内容とし、その中に会の要望や初心者が理解しなければならない項目を盛り込んで体験者にも知恵を借りながらもう一度原点に立ち戻って考えてもらう。
・　最初にアンケートをして、できるだけ参加者の希望にそえるようにする。

・　授業の具体化や時間調整のため、「授業の実際」のビデオを幾つか用意し、必要に応じて利用する。

〇月×日

資料つくりをはじめた。　思ったより大変な作業だ。
プリント教材でも、日ごろから心がけてはいるものの、見やすく合理的なものにするのにはそれなりの努力が必要だ。

また、語彙一つにしてもそれで正しいのかを裏づけるために、それにもっと違った見解はないか、少しでも新しい資料はないかなど、３０冊近くの本を読まなければならなかった。

方法論は数多くあるが、対象が人であり、共に育つていくボランティア活動なのだから、自らもまた常に学ばねばならないと日頃から言ってきたし実践もしてきたが、今回も、受講者によりよく学んでもらうためには自分もまた多くを学ばねばならぬ事を思い知らされた。

〇月×日

いよいよ研修会始まる。予想以上の受講者が集まり嬉しかった。
ただし、参加者が多種多様なことは予想通り。特に日本語ボランティアの経験がない人が意外に多かったのでワークショップのグループ分けなど工夫が必要だと思った。研修内容は、まず、リクエストの「日本語能力試験」について。これは主として解説なのであまり問題はなかったが、最近の日本語事情により受験者が増えてきて、要望があれば広い分野にわたって対応しなくてはならない日本語ボランティアは大変だと改めて思った。

次に日本語教育について、いろいろな面から考えてもらったが、今回は「日本語ボランティアの会」なので、ボランティアについても再確認してもらった。というのは、一般に「日本語」に目が向いて入会した人が多く、ボランティアについては余り深く考えない人が多いのではないかと思ったからだ。

私の場合は、もう約４０年前からボランティアをはじめた。
その頃は、県内には在住の外国人はごく少なく、留学生も数える程しかいなかった。それで活動の内容も、国際理解教育やホームステイ・海外研修など、日本人を中心にした国際交流ボランティアが多く、外国人は「やがては帰る人」であった。

そのうち、日本に在住する外国人が増えてきて、外国人との清里での国際交流キャンプや子供たちの国際サマースクール・文化交流等々、次には在住外国人を対象にしたさまざまな国際交流活動を企画運営するようになった。

そうこうするうちに国際情勢により在住外国人の数は増え続け、国内でも

交流だけでなく、一歩踏み込んで在住外国人に支援をということになり、私のできる支援として日本語ボランティアをはじめたのである。つまり私の場合は、日本語ボランティアは国際ボランティアの延長線上にあり、ごく自然にボランティア活動として受け入れてきた。人によりボランティアに対する考えや想いは違うのだろうが、なぜ「日本語ボランティア」をするのか、これからも折にふれ見つめ直してほしいと思う。

―閑話休題―

もう一つの内容「日本語教育と国語教育」については、具体的に比較検討しながら学んでもらったが、よく理解して「外国語としての日本語教育」である事を忘れず、あくまでも日本語を母語としない人の立場に立って導いてほしい。

実施したアンケートについては、何らかの形で研修内容に織り込み、終了するまでにすべてのリクエストに応えることにした。

〇月×日

動詞の教え方

なるべく具体的に実際の授業に役立つようにと思い、努力した。

特に、ヴィシャカさんに母語で簡単な動詞の授業をしてもらい、参加者に外国人の立場になって授業を受けてもらったことは好評だった。私自身も企画の段階でスリランカの文字が思いがけないものだったのを知らされて大変興味深く（外国でいろいろなアラビヤ文字にも接し、大学やボランティア活動でも多くのスリランカ人を教えてきたのに…）内容と共に受講者にもきっと喜んでもらえると思った。

また動詞の授業のワークショップを通して、実際の授業に対する基本的な考え方や組み立て方について理解してもらったり、多くの授業例から教材の作り方や活用法についても学んでもらったが、もう少しワークショップの時間があるとゆっくり考えられてよかったと思った。　授業が終わってから、「大変参考になった」とか、「自分も早速教材を工夫してみたい」とか、多くの人がアンケートに書いて下さって次への励みとなった。

〇月×日

いよいよ最終日。　リクエストの「動詞のて形」や「種類分け」についての研修。いろいろな教材を提示し、共に考えながら具体的に説明したが、各自でもう一度よく整理し、教材もより楽しいものを工夫して授業に臨んでほしい。

本日のメインの敬語コミュニケーションについても、待遇コミュニケーションとして、初級の段階からレベルに応じて機会あるごとに「人間関係」や「場」に配慮した表現の使い分けができるよう今回の研修を参考にドリルしてほしい。

「 授業の実際 」のビデオについては、もう少し時間があればと思ったが、時間調整の意味もあったので、いつか、改めてゆっくり話し合いながら観る機会があればよいと願う。

研修会が終わってから「参考になりました」とか「眼から鱗でした」とか「私もがんばります」とか、直接お話くださったり、お電話やお手紙を戴いたりしてとても嬉しかった。限られた時間で足りない点も多々あったと思うが、新しい出会いがあったり、少しでも喜んで戴いたり、自分も勉強になったり、やっぱりこの研修会の講師を引き受けてよかったと思った。

参加者の皆さん有難うございました・・。

読み返してみて本当に思うがままですみません。簡潔に「反省と今後の課題」とまとめればよかったのかもしれませんが、不参加の方にも研修内容の概要や意図したものを知ってほしいし、再確認や裏話・皆さんへの感謝や願いなど、つい長い文になりました。前書きにも書いた通り、私の思い（想いも）が少しでも伝われば嬉しいと思います。

私は　曽野綾子さんの『今あるもので幸福を創る』　という言葉が好きです。彼女は「老いの才覚」の中で　「晩年はさまざまなものを失っていく。だからこそ、自分が得ているもので幸福を創り出す才覚が必要である」と言っています。では、今の私にあるものは…いろいろあるけれど、やはりその中の一番は「日本語ボランティア」です。　これがあるお陰で 80 歳を過ぎた今でも楽しく有意義に生きています。　特にこの［創り出す］という才覚は、今後の多様化社会に対応していかなければならない日本語ボランティアにとって、年齢に関わらずとても大切なものだと思います。

「今あるもの」はそれぞれ違うでしょうが、それを最大に活かして考え、実践し、結果を分析し、自ら学び、改善して新しいものを創り出していく。こうした積み重ねこそが「今あるもの」をより豊かにし、前に進む原動力になると思うのです。　研修会や日本語相談は、そのお手伝いの一つです。

これからを切り拓いていく皆さんに、おおいに期待しています。

――　日本語相談　――

＊　日本語ボランティアに関することなら何でもどうぞ・・

＊　テキストや参考書・教材（各種資料・絵・図・ビデオなど）の貸し出しもします。

☎　055・237・1432
望　月